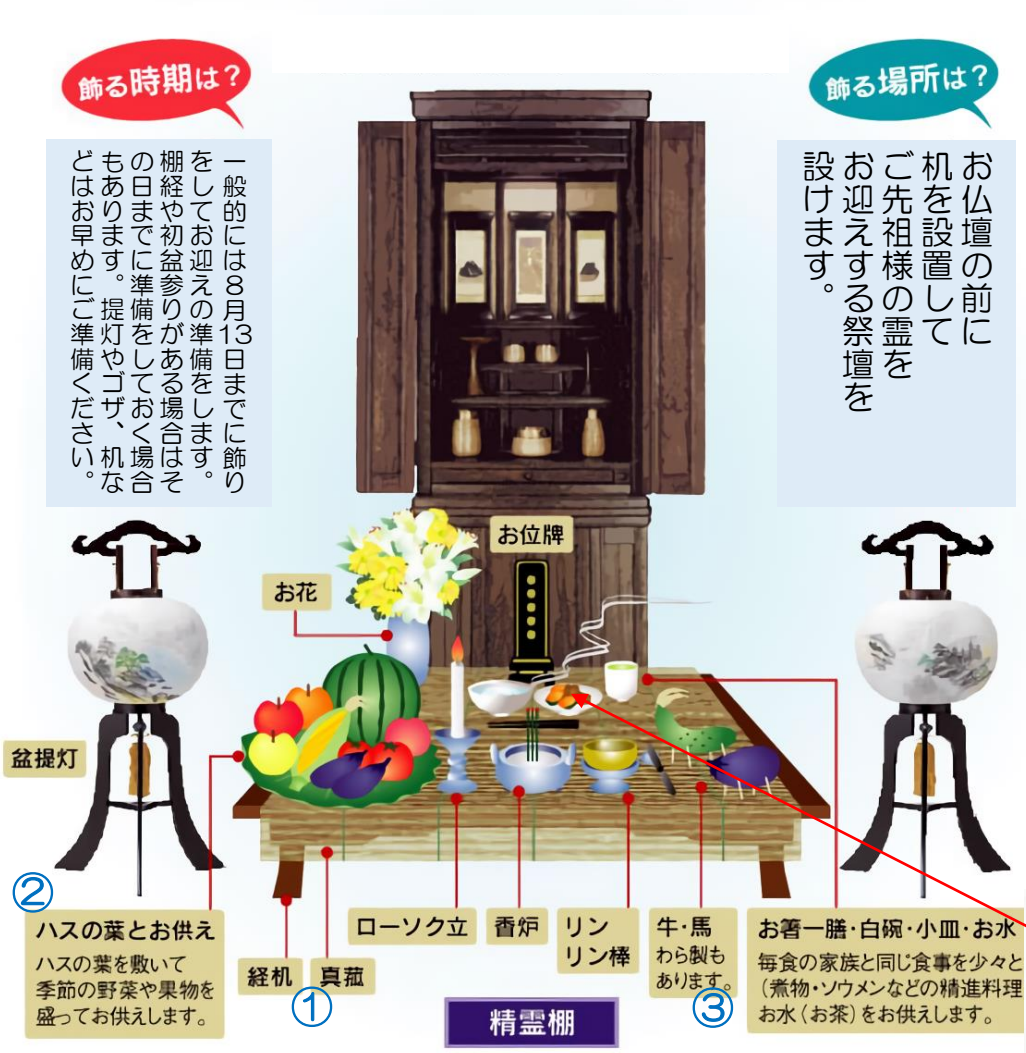
白木の祭壇を用いない盆飾り

「白木の祭壇を用いない場合の初盆飾り」
「毎年の盆飾り」のご参考になさってください。

甲賀水口店掲載

「一般的な家庭でのお盆飾りをご紹介」

地域によって習慣がありますので、一般的な飾り方の一例を紹介します。



【8月13日～15日（16日）　ご先祖様をお迎えする準備について】

①お仏壇の前に、 経机や木製棚などを置き、その上に真菰（ゴザ）を敷いて、「精霊棚」 をつくります。精霊棚に、お位牌、 ローソク立、香炉、リンを置き、お花、季節の野菜や果物、お水、煮物やソウメンなどの精進料理、故人の生前好物などをお供えします。精霊棚の両脇には、絵柄の入った盆提灯（行灯）を飾ります。

②ハスの葉の上に、 季節の野菜や果物などを盛ってお供えします。かぼちゃ、とうもろこし、トマト、キュウリ、ナスなど、季節の野菜や果物をハスの葉の上に盛ってお供えします。お盆特有のお供えとして、ハスの葉の上に洗米などを盛り、ほおずきなどを添えてお供えすることもあります。

③キュウリとナスに、箸（麻がら）で4本足を付け、故人の霊やご先祖様が乗る 「馬（キュウリ)と牛(ナス)」に見立てたものをお飾りします。迎えるときは 「足の速い馬で少しでも早く家に来てもらうように」、 送るときは「名残惜しいので足の遅い牛でゆっくり帰ってもらうように」という意味が込められています。

④故人の霊が帰ってくるお盆なので、迷わぬように軒先や仏間に盆用の提灯を吊します。初盆は「初盆提灯」ですが、翌年のお盆からは毎年使える「盆提灯」を用意してご先祖様をお迎えします。